

# 耐震診断義務化建築物（要安全確認計画記載建築物）の耐震診断の結果の公表について

阪神・淡路大震災では昭和56年5月31日以前（旧耐震基準）に建築された建物に大きな被害が発生しました。耐震診断や耐震改修を実施し、耐震性を確保することにより、大震災による被害を大幅に軽減することが可能となります。

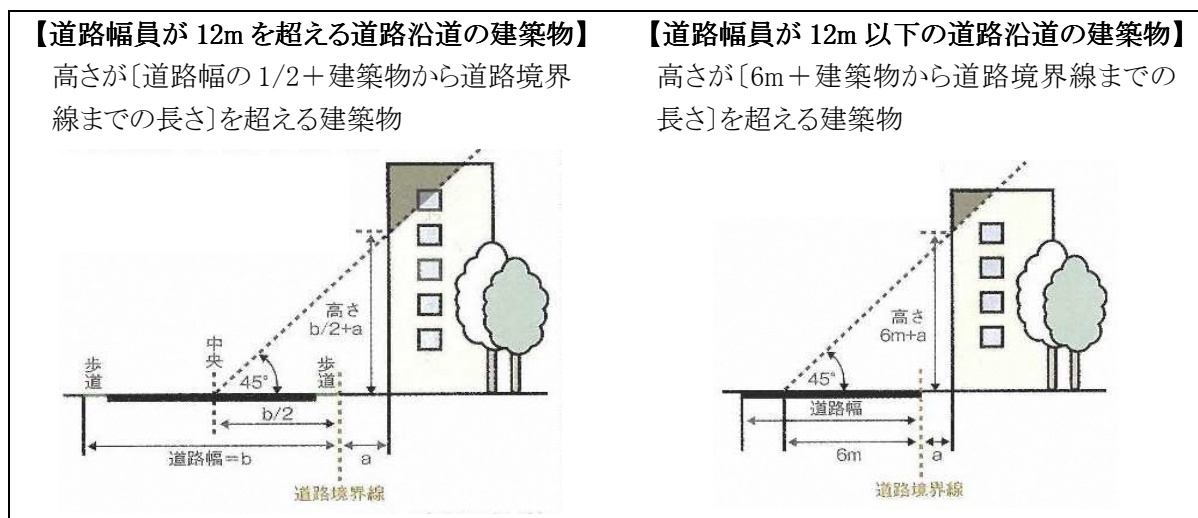
建築物の地震に対する安全性の向上を一層促進するため、平成25年に「建築物の耐震改修の促進に関する法律」が改正され、地震に対する安全性が明らかでない昭和56年5月31日以前（旧耐震基準）の建築物について、所有者は耐震診断を行い、必要に応じ、耐震改修を行う努力義務が課せられました。

また上記のうち一定規模以上の建築物については耐震診断を実施し、その診断結果を所管行政庁（豊中市）に報告することが義務付けられ、所管行政庁（豊中市）は報告された耐震診断の結果を公表することになりました。

## 耐震診断の義務付け対象となる要安全確認計画記載建築物とは（公表対象の建築物）

○都道府県又は市町村が指定する緊急輸送道路等の避難路沿道建築物のうち一定の高さ以上のもの（下図参照）。

（豊中市内においては、大阪府が指定する国道423号（新御堂筋）、国道176号の一部と大阪中央環状線が対象路線となっています。）



## 耐震診断結果について

耐震診断の評価については、末尾の「耐震診断の結果の見方」を参考に「要安全確認計画記載建築物の耐震診断の結果」と「附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価」を照らし合わせて、ご覧になりたい建築物の地震に対する安全性についてご確認ください。

結果は、震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示しており、いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはないとされています。

## 要安全確認計画記載建築物の耐震診断の結果

【国道423号】

	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	緑地駅ビル	豊中市寺内2丁目4-1	事務所、店舗	5 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_s/I_{so}=1.00$ $C_{Tu} \cdot S_D=0.48$	耐震改修	実施済	
2	日商岩井緑地公園マンション	豊中市寺内2丁目14-1	共同住宅	4 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_s/I_{so}=1.02$ $C_{Tu} \cdot S_D=0.30$	耐震改修	実施済	桁行方向 $R_t=0.98$ $I_{so}=0.588$
				3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so}=1.08$ $C_{Tu} \cdot S_D=0.69$	耐震改修	実施済	張間方向
3	北大阪ハイツ	豊中市東寺内町11-35	共同住宅	4 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_s/I_{so}=1.11$ $C_{Tu} \cdot S_D=0.54$	耐震改修	実施済	鉄骨鉄筋コンクリート造部分 基準適合認定建築物※
				3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so}=1.06$ $C_{Tu} \cdot S_D=0.35$	耐震改修	実施済	鉄筋コンクリート造部分 基準適合認定建築物※

※基準適合認定建築物・・・建築物の耐震改修の促進に関する法律第22条第2項の規定に基づき、地震に対する安全性に係る基準に適合している旨の認定を受けた建築物

[附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価\(6ページ目\)はこちら](#)

[耐震診断の結果の見方\(7ページ目\)はこちら](#)

【国道423号】

	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考	
						内容	実施時期		
4	千里中央パーク・ヒルズK棟	豊中市上新田1丁目28	共同住宅	4	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_s/I_{s0}=0.54$ $C_{Tu} \cdot S_D=0.25$			鉄骨鉄筋コンクリート造部分(桁行方向)
				5	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_s/I_{s0}=0.55$ $C_{Tu} \cdot S_D=0.15$			
				4	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_s/I_{s0}=0.80$ $C_{Tu} \cdot S_D=0.48$			鉄骨鉄筋コンクリート造部分(張間方向)
				5	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_s/I_{s0}=1.02$ $C_{Tu} \cdot S_D=0.61$			
				3	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{s0}=0.46$ $C_{Tu} \cdot S_D=0.18$			鉄筋コンクリート造部分(桁行方向)
				3	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{s0}=1.46$ $C_{Tu} \cdot S_D=0.88$			鉄筋コンクリート造部分(張間方向)

[附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価\(6ページ目\)はこちら](#)

[耐震診断の結果の見方\(7ページ目\)はこちら](#)

【国道423号】

	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考	
						内容	実施時期		
5	緑地公園パークハイツ	豊中市寺内 2丁目3-6、7	共同住宅	3	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so}=0.55$ $C_{TU} \cdot S_D=0.35$			6号棟
				5	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_s/I_{so}=0.66$ $C_{TU} \cdot S_D=0.28$			7号棟(高層棟)
				3	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so}=2.14$ $C_{TU} \cdot S_D=1.38$			7号棟(管理棟)
6	グランドメゾン緑地公園	豊中市寺内 2丁目13-5	共同住宅	5	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_s/I_{so}=0.75$ $C_{TU} \cdot S_D=0.39$			鉄骨鉄筋コンクリート造部分 (桁行方向)
				5	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_s/I_{so}=0.53$ $C_{TU} \cdot S_D=0.34$			鉄骨鉄筋コンクリート造部分 (張間方向)
				3	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so}=0.31$ $C_{TU} \cdot S_D=0.21$			鉄筋コンクリート造部分 (桁行方向)
				3	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so}=1.10$ $C_{TU} \cdot S_D=0.71$			鉄筋コンクリート造部分 (張間方向)

[附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価\(6ページ目\)はこちら](#)

[耐震診断の結果の見方\(7ページ目\)はこちら](#)

【国道423号】

	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考	
						内容	実施時期		
7	第2マンション寺直	豊中市寺内2丁目13-11	共同住宅	4	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_s/I_{s0}=0.70$	$C_{TU} \cdot S_D=0.28$		鉄骨鉄筋コンクリート造部分
				3	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{s0}=0.43$	$C_{TU} \cdot S_D=0.28$		鉄筋コンクリート造部分
8	緑地公園コーポラス	豊中市東寺内町12-14	共同住宅	4	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_s/I_{s0}=0.83$	$C_{TU} \cdot S_D=0.25$		鉄骨鉄筋コンクリート造部分
				3	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{s0}=0.30$	$C_{TU} \cdot S_D=0.18$		鉄筋コンクリート造部分

[附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価\(6ページ目\)はこちら](#)

[耐震診断の結果の見方\(7ページ目\)はこちら](#)

【国道176号】

	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	日本生命石橋支部ビル	豊中市清風荘 2丁目3-1	事務所	2 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is/Iso=1.90			Iso=0.8
2	—	豊中市清風荘 2丁目6-15、16	店舗付長屋	6 一般財団法人日本建築防災協会による「既存壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断指針」に定める第1次診断法により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is/Iso=1.43			Iso=0.8
3	大阪フローメーター工業(株)社屋	豊中市清風荘 1丁目4-3	事務所	1 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.28    q=1.04			
4	河津マンション	豊中市清風荘 1丁目12-13	共同住宅	3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso=0.71    C <sub>TRU</sub> ・S <sub>D</sub> =0.44			
5	ユニライフ石橋	豊中市清風荘 2丁目2-19	共同住宅	3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso=0.61    C <sub>TRU</sub> ・S <sub>D</sub> =0.37			
6	朝日プラザ石橋	豊中市清風荘 2丁目3-5	共同住宅	3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso=0.35    C <sub>TRU</sub> ・S <sub>D</sub> =0.25			
7	—	豊中市清風荘 2丁目6-14	一戸建ての住宅	1 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.07    q=0.28			

[附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価\(6ページ目\)はこちら](#)

[耐震診断の結果の見方\(7ページ目\)はこちら](#)

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
		I	II	III
1	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$
2	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	—	—	$1.0 \leq I_s/I_{so}$
3	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
4	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
5	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
6	一般財団法人日本建築防災協会による「既存壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断指針」に定める第1次診断法により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	—	—	$1.0 \leq I_s/I_{so}$

- I.大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。  
 II.大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。  
 III.大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

(※)震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。

いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

(※)Isolについては備考欄に特記がない限り、0.6とする。

(※)Z、R<sub>t</sub>、G、Uについては備考欄に特記がない限り、1.0とする。



# 耐震診断の結果の見方

## ■耐震診断の結果と附表の関係

建築物の耐震診断は、現行耐震基準(震度6強から7に達する程度の地震に対する安全性を評価するものです。)

地震に対する安全性の評価については、一覧表にある評価の結果を附表に当てはめることでそれぞれの評価が確認できます。安全性の評価Ⅲは「大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い」、評価Ⅱは「大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある」、評価Ⅰは「大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い」とされますが、これらの評価区分により建築物の崩壊・大破の危険性が確定的になるものではなく、評価値が小さくなるに従って、被害を受ける可能性が高くなるものとされています。

### 要安全確認計画記載建築物の耐震診断の結果

【国道176号線】

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	〇〇ビル	豊中市〇〇	事務所	2 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Is <sub>0</sub> =1.04 CT <sub>U</sub> ・S <sub>D</sub> =0.76	耐震改修	実施済	Is <sub>0</sub> =0.7
2	〇〇マンション	豊中市〇〇	共同住宅	3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(1983年版)	Is/Is <sub>0</sub> =1.01	耐震改修	実施済	〇〇棟 Is <sub>0</sub> =0.7
				2 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Is <sub>0</sub> =1.06 CT <sub>U</sub> ・S <sub>D</sub> =0.53			〇〇棟 Is <sub>0</sub> =0.7

■耐震診断の結果の一覧表における補足事項  
「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」は、各方向、各階のうち、最小値を記載しています。

#### ■用語の解説

##### Is 値

構造体の耐震性能を表す指標(Is<sub>0</sub>は判定基準となる目標値)この数値が大きいほど、耐震性能が高い。

##### CT<sub>U</sub>・S<sub>D</sub>(CT・S<sub>D</sub>)値、q値

構造体の粘り強さ、建築物の平面・立面形状等から求める耐震性能に係る指標。この数値が大きいほど耐震性能が高い。

##### Z・G・U値、Z・R<sub>t</sub>・G・U値

地域特性(地震活動等)、地盤特性(地形等)、建物の震動特性、建物用途等から目標値を補正するための指標。補正がない場合は1.0となる。

### 附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	I	II	III
1 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1977年版、2011年版)	Is<0.3 又は q<0.5	左右以外の場合	0.6≤Is かつ 1.0
2 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	Is/Is <sub>0</sub> <0.5 又は CT <sub>U</sub> ・S <sub>D</sub> <0.15・Z・G・U	左右以外の場合	1.0≤Is/Is <sub>0</sub> かつ 0.3・Z・G・U≤CT <sub>U</sub> ・S <sub>D</sub>
3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1983年版)	Is/Is <sub>0</sub> <0.5	左右以外の場合	1.0≤Is/Is <sub>0</sub>

附表中の番号・同一名称の診断方法の行から安全性の評価を読み取ります。

評価の結果と附表の判定式を比較することで評価(I~III)が決まります。なお、評価結果のすべてが右側記載の判定式に該当する場合、評価Ⅲとなります。